

鳥取県地震

2020年（令和2年）10月

鳥取地方気象台

目次

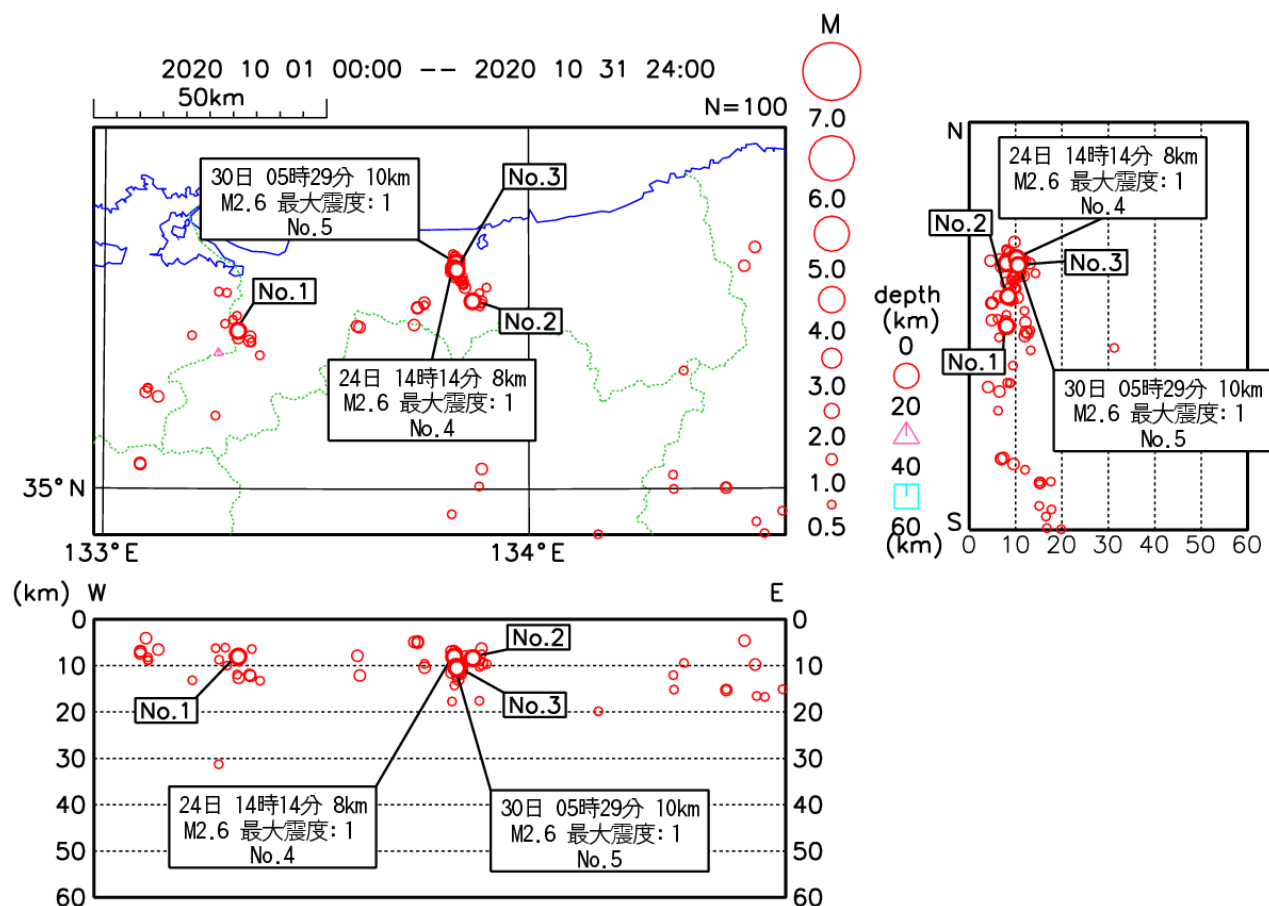
(1) 鳥取県とその周辺の地震活動	
震央分布図及び断面図、概況	1
震源リスト（M2.0以上）	1
(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震	
震度のリスト	2
震度分布図	2
(3) 地震・津波の知識	
中国地方の活断層	3

- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。
- ・本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがある。

＊ 広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。
大阪管内地震活動図URL <https://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html>

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動

[震央分布図・断面図]



[概 況]

2020 年 10 月に鳥取県内の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震は 2 回（先月は 1 回）でした。

24 日 14 時 14 分 鳥取県中部の地震（深さ 8km、M2.6）により、鳥取県倉吉市・湯梨浜町・北栄町で震度 1 を観測しました。

30 日 05 時 29 分 鳥取県中部の地震（深さ 10km、M2.6）により、鳥取県倉吉市・北栄町で震度 1 を観測しました。

上記震央分布図内において、M2.0 以上の地震は 5 回（前月は 0 回）でした（番号は震源リストに対応）。

[震源リスト(震央分布図内のM2.0以上の震源リスト)]

期間 : 2020 年 10 月 1 日 00 時 00 分～2020 年 10 月 31 日 24 時 00 分

緯度 : 34° 55' ～35° 45' N 経度 : 133° 00' ～134° 40' E

深さ : 0 km～60 km

No.	発震時 (年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード	最大 震度
1	2020 年 10 月 02 日 01 時 38 分	鳥根県東部	35° 18.3' N	133° 18.9' E	8.0	2.2	—
2	2020 年 10 月 06 日 23 時 10 分	鳥取県中部	35° 21.8' N	133° 52.0' E	8.3	2.1	—
3	2020 年 10 月 10 日 02 時 21 分	鳥取県中部	35° 25.4' N	133° 49.8' E	10.5	2.4	—
4	2020 年 10 月 24 日 14 時 14 分	鳥取県中部	35° 25.6' N	133° 49.4' E	8.0	2.6	1
5	2020 年 10 月 30 日 05 時 29 分	鳥取県中部	35° 26.2' N	133° 49.7' E	10.2	2.6	1

(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震

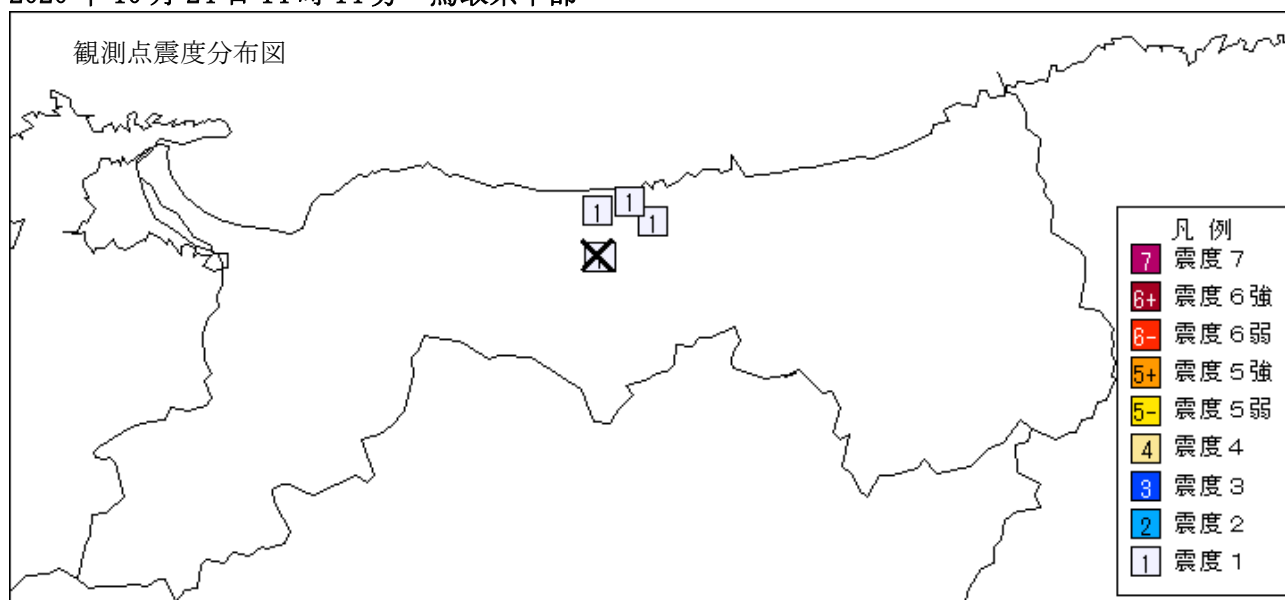
[鳥取県内で震度1以上を観測した地震及び震度のリスト]

発震時 (年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ	マグニチュード
2020 年 10 月 24 日 14 時 14 分	鳥取県中部	35° 25.6' N	133° 49.4' E	8km	M2.6
----- 地点震度 -----					
鳥取県 震度 1 : 倉吉市葵町*, 湯梨浜町久留*, 湯梨浜町龍島*, 北栄町土下*					
2020 年 10 月 30 日 05 時 29 分	鳥取県中部	35° 26.2' N	133° 49.7' E	10km	M2.6
----- 地点震度 -----					
鳥取県 震度 1 : 倉吉市葵町*, 北栄町土下*					

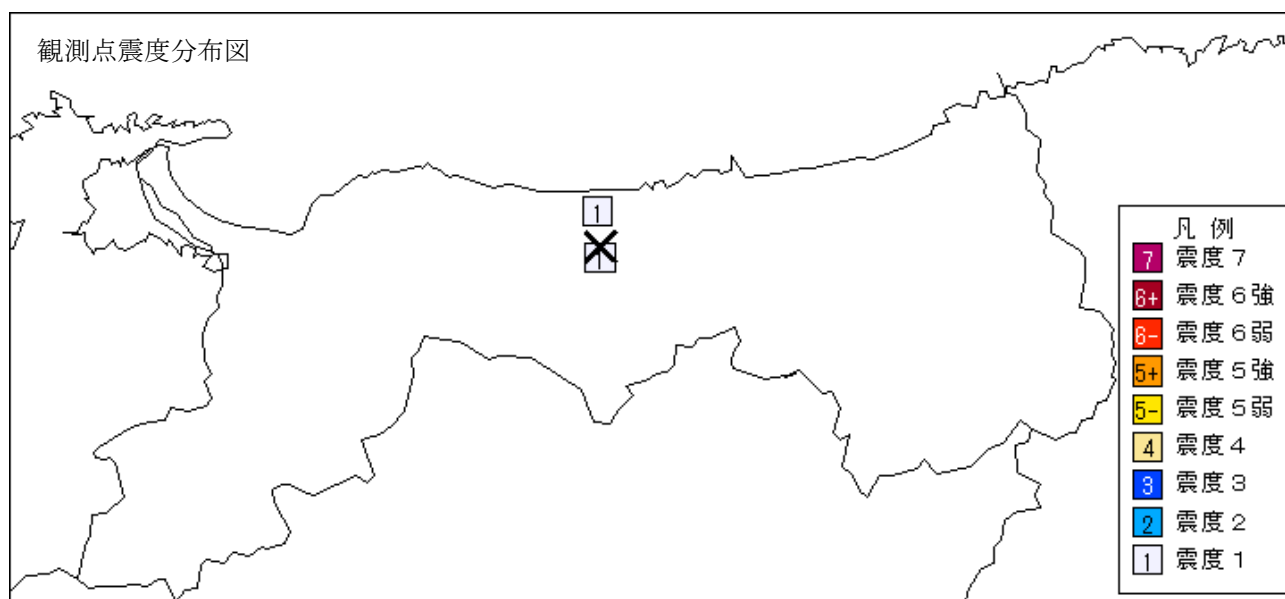
*印のついている地点は、鳥取県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

[鳥取県内で震度1以上を観測した地震の震度分布図 (図中×は震央)]

2020 年 10 月 24 日 14 時 14 分 鳥取県中部



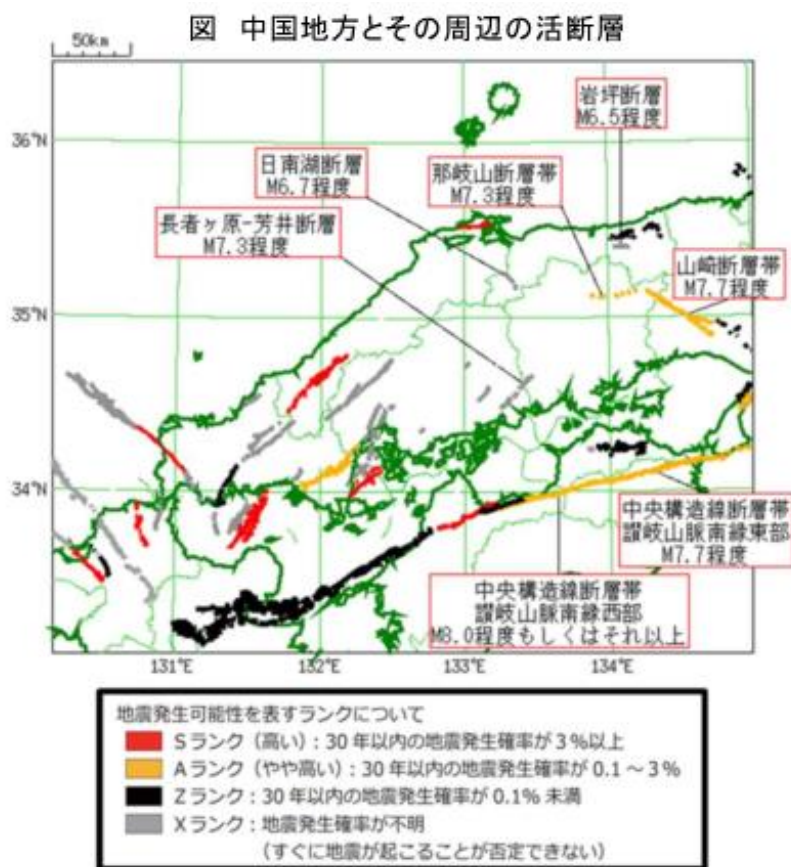
2020 年 10 月 30 日 05 時 29 分 鳥取県中部



(3) 地震・津波の知識

中国地方の活断層

中国地方の活断層の分布を調べてみると、広島県西部から山口県東部にかけての西部は明瞭に認められる活断層が多く、鳥取県を含む東部は少なくなっています。下図の細線は、調査や地震の記録などをもとに、今後発生する地震の規模や発生確率が地震調査研究推進本部により評価されている活断層です。



これらの活断層は地震発生の可能性を分かり易く示すため、発生確率の値に従って 4 つのランクに分けられています。

赤色で表示された活断層は、今後、地震の発生する確率が高い (30 年以内に 3% 以上) と評価された「S ランク」の活断層であることを示しています。黄色のものは、やや高い (30 年以内に 0.1 ~ 3%) 「A ランク」であることを、黒色のものは、30 年以内に 0.1% 未満の「Z ランク」であることを、灰色のものは、発生確率が不明の「X ランク」であることを示しています。

鳥取県内の断層で言えば、鹿野-吉岡断層と雨滝-釜戸断層は Z ランク、岩坪断層と日南湖断層は発生確率不明な X ランクです。

個々の活断層で見ると地震活動が繰り返し発生する間隔は長い (例えば数千年~数万年程度) ため、今後 30 年以内に地震が発生する確率値は小さな数値となりますが、発生間隔に揺らぎがある (長かったり短かったりする) ことや地震が発生した際の影響 (被害) の大きさを考えると、やはり対策や備えが必要です。(1995 年に発生した「兵庫県南部地震」では、地震発生直前における 30 年確率が 0.02% ~ 8% であったことを踏まえると、「小さい値」だからと見過ごせないのではないのでしょうか。)

また、M7に達しない規模の地震の断層は地表に現れないことがあり、「長期評価されているような活断層が近くに見られないから地震は発生しない」とは言い切れないことにも注意が必要です。どこでも地震が発生すると考えて、備えをしておくことが重要です。

(参考資料)

- ・気象庁 HP パンフレット「活断層の地震に備える ―陸域の浅い地震―」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/katsudansou/index.html>

- ・地震本部 HP 中国地域の活断層の地域評価

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/regional_evaluation/chugoku-detail/

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和2年10月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

URL https://www.data.jma.go.jp/tottori/tottori_jishin.htm

問い合わせ先：鳥取地方気象台

TEL：0857-29-1313